

●このテーマにした理由

- ・小中学生のころから踊りにいっているが、毎年同級生やほかの学年が少ないと感じた。
- ・おどりのことを聞くと、「つまらない」や「屋台にしか行かない」と言われた。

このままでは受け継がれてきた 郡上おどりが衰退する危険性がある



小中学生におどりに行ってもらうことで、郡上おどりを発展させたい



小中学生にアンケートを取って結果から考察していこう！

(実際に八幡小学校5・6年生、八幡小学校1・2年生に下のアンケートへ協力して頂いた)



●アンケートの結果

- ・郡上おどりが好きで、おどりに行く人がたくさんいた。
- ・屋台に行く人がほとんどであった。

⇒輪の中に入っておどることより屋台やその他のものに魅力があるからおどりに参加しないのではないか。

●小中学生の踊り促進についての郡上市の取り組み

- ・今年度から小中学生対象のスタンプカードを導入。郡上踊り又は白鳥踊りに参加した回数で手拭いなどの商品と引き換えをした。



⇒このスタンプカードを導入したことについて知るために郡上市商工観光課にインタビューを実施。

●インタビューの結果

- ・郡上おどりの推進「おどりの町推進事業」の一環として導入 ⇒ 市民の参加促進、お客さんの数の増加
- ・カードを持って親子で踊りに来ていた人が多かった。⇒ スタンプカードを導入した**効果があった**。

しかし郡上市の取り組みは**実際におどりの輪に入って踊る人を増やすことにはあまり関係がない**と考えた。

●小中学生がおどりの輪に入って踊るには

- ① 郊外に住んでいてもおどりに来られるような交通手段
- ② 子供たちが安心しておどりを楽しめるような会場づくり

①交通手段

- ・公共バスはあるが最終便が早いため、親や知り合いの送迎がなければおどりに来られない。
- ⇒各方面と踊り会場を結ぶシャトルバスがあると便利

- ・各方面（明宝、和良、大和・白鳥・高鷲、美並）から踊り会場へ行く、または帰るシャトルバス
- ・踊り開催日に往復1～2便程度
- ・料金は距離で変わるが通常よりお得に乗車できるとよい。



②おどりを楽しめる会場づくり

- ・会場が狭く、子供たちが踊りにくい
- ・踊りたくても踊るきっかけができない、輪の中に入りづらい。

⇒子供たちが踊れるスペースを作ったり、子供たちの中から踊りが上手な人を選び踊り方などを教えるリーダーとなってもらう。

- ・踊りの輪の中で子供専用の輪もしくは列を作る。
- ・踊り開始が20：30からなので、そこから1時間子供専用の輪、列を作る。
- ・リーダーが先頭、列の最後になって踊りの列を作り、楽しく踊る。



●まとめ

今年度の郡上おどりで実践することはできませんでしたが、小中ともに郡上おどりが好きな人が多いことがわかりました。また郡上市は今後もおどり活性化に向けての活動(下駄作り体験)などを積極的に進めていくそうなのでおどりが好きになる人が増えるだろうと思いました。せっかくなので来年度の郡上おどりは行ったことがある人もない人も、ぜひ参加してみてくださいね!!!